

統合実習

1. 目的

看護チームの一員として看護管理の視点を持ち、複数患者の受け持ち・多重課題を通して、看護の知識・技術・態度を統合した専門職として必要な看護実践能力を高める。

2. 目標

- 1) チームメンバーと情報を共有しながら複数の受け持ち患者の身体的・心理的・社会的側面を理解できる。
- 2) チームナーシングにおけるメンバーシップを発揮できる。
- 3) チームメンバーと協力しながら複数受け持ち患者の看護計画を立案できる。
- 4) 複数患者の健康状態に合わせた看護援助を優先順位や時間管理を踏まえ、チームで協力しながら安全に実施できる。
- 5) 病院及び病棟における看護管理、医療安全の実際を理解できる。
- 6) 看護チームの一員としての自己の課題を明確にできる。

3. 実習構成

統合実習 2 単位(90 時間)	時間数(単位)	実習施設
	1時間	統合実習 I 学内オリエンテーション
	1時間	統合実習 II 学内オリエンテーション
	88 時間(2 単位)	相原病院、イムス横浜狩場脳神経外科病院、菊名記念病院、東戸塚記念病院、横浜旭中央総合病院、横浜新都市脳神経外科病院

4. 患者選定条件

- 1)複数患者の受け持ちとなるため、同チームの患者が望ましい。
- 2)重症患者、医療(人工呼吸器装着など)、看護必要度(全介助)の高い患者は避ける。
- 3)援助の実施を中心に考えるのではなく、観察・行動の優先順位について考えられる患者が望ましい。

5. 実習目標に関する学習内容

目標 1 チームメンバーと情報を共有しながら複数の受け持ち患者の身体的・心理的・社会的側面を理解できる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. チームメンバーと情報を共有しながら、複数の受け持ち患者の身体的・心理的・社会的特徴を記述できる。	1)情報収集 (1)身体的特徴の理解 (2)精神的特徴の理解 (3)社会的特徴の理解 (4)複数受け持ち患者とのコミュニケーション (5)病棟看護チームの看護の方向性 (6)倫理的配慮 2)情報の活用 (1)情報の記録と役割	・病棟の看護チームで立案されている看護計画を参考に、受け持ち患者の情報収集を行う。 ・患者と関わり意図的コミュニケーションをとる。 ・受け持ち患者との関係を構築する。 ・カルテなどから、必要なケア、治療、検査などを情報収集する。 ・実習 2 日目までは一人の患者を受け持ち、3 日目からは学生看護

	(2)情報の伝達・共有・活用	チームを編成し、看護チームで患者を受け持つ。
--	----------------	------------------------

目標 2 チームナーシングにおけるメンバーシップを発揮できる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. チームリーダー及びメンバーの役割を踏まえて、行動できる。	1)看護ケア提供システム (1)チームナーシングシステム (2)プライマリナーシングシステム (3)患者受け持ち方式 (4)機能別看護方式 2)チーム医療 (1)チーム医療に必要な機能 ①連携・協働：看護チームメンバーが不在でも継続される 看護の質と患者の安全 ②コミュニケーション ③情報の伝達・共有・活用・報告するべき優先事項の抽出 ・緊急性の有無の判断 ・的確な報告内容（系統的、客観的、簡潔）の選択 ・報告のタイミング ・報告する相手の状況を確認する必要性 ・病棟外に出る前、帰室後の声掛け (2)看護職の責任と役割 ①チームリーダーの責任と役割：リーダーシップとマネジメント ②メンバーの責任と役割：メンバーシップ	・行動計画修正、看護援助の実施前の声かけを行う。 ・援助実施後や事故発生時など、病棟看護体制に基づいた報告を適切に行う。 ・休憩の前後など所在を明らかにする ・患者に関することについてチームメンバーとコミュニケーションを取る。 ・チームメンバーと積極的に協力し、必要時、協力を得ながら援助を実施する。 ・看護チームの一員として、必要な時に適切な内容の報告、連絡、相談を行う。 ・予測しない状況の変化が生じた場合、リーダー看護学生に報告し指示を仰ぐ。 ・チームの一員としての行動の時間配分を考える。
2. 実施した看護ケアの結果を系統的に報告できる。		

目標 3 チームメンバーと協力しながら複数受け持ち患者の看護計画を立案できる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. チームメンバーと複数患者の情報を共有し、優先される看護問題を明確にできる。	1)対象のニードや身体、心理状態、治療内容を考慮した看護計画の立案 (1)健康障害のある対象の QOL を高める援助 (2)セルフケア支援	・病棟の看護チームで立案されている看護計画を確認する。 ・看護計画の根拠となる情報収集・アセスメントを行う。 ・受け持ち時の患者の状態から看護目標の設定、看護計画の追加、

	<p>(3)ストレスコーピングを促す支援 (4)行動変容を促す支援 (5)セルフマネジメントを促す支援 (6)家族介護者への支援</p> <p>2)優先される看護問題の明確化 3)優先順位の決定と多重課題への対応</p> <p>(1)緊急性と重要度 (2)マズローの基本的欲求階層 (3)対象の訴え、ニーズ</p> <p>4)チーム医療</p> <p>(1)チーム医療に必要な機能</p> <p>①連携・協働：看護チームメンバーが不在でも継続される看護の質と患者の安全</p> <p>②コミュニケーション</p> <p>③情報の伝達・共有・活用</p> <p>(2)看護職の責任と役割</p> <p>目標 2 参照</p>	<p>修正を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスで看護ケアの情報共有や方向性、患者の医療安全について話し合う。 ・カンファレンスの内容は必要時、統合実習記録様式3に追加する。 ・必要時、看護計画の追加、修正を行う。 ・実習3日目よりリーダーを一人決めて、その他のメンバー全員で患者を受け持つ。 ・夜間実習、リーダー役割の学生の患者を含めて学生看護チームメンバーで患者を受け持つ。 ・その日の患者の状態などに応じて、複数の患者を受け持つメンバーを決める。 ・実習期間中、全員が複数の患者受け持ちを経験できるようにする。 ・複数の患者受け持ち開始前に行ったカンファレンスでの情報共有を基に学生看護チームで看護を提供する。 ・援助の優先度・時間配分について、特に考慮した根拠や理由を記載する。 ・意図的に得た情報を病態生理の知識を用いて、解釈・分析し、優先順位の判断を行う。
<p>3. 複数患者の反応を基に実施した看護ケアの評価、優先順位の評価が記載できる。</p>	<p>1)計画の評価、修正</p> <p>(1)目標達成の分析 (2)未達成時の原因の明確化</p> <p>①対象や家族のニードの確認 ②情報分析の適切性 ③目標設定の妥当性</p> <p>(3)優先順位の判断、評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・患者にケアやスケジュールに関する説明を行い、患者と調整を行い、同意を得る。 ・援助実施による対象の反応から、看護計画や優先順位の妥当性を評価し、追加、修正する。 ・翌日の行動計画、優先順位を当日の評価に基づいて行う。
<p>4. 夜間における患者の状態を記録に記載し、必要時、看護計画の修正ができる。</p>	<p>1)夜間帯における患者の療養生活</p> <p>(1)病棟環境の変化 (2)面会の状況 (3)患者個々の過ごし方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夜勤看護師に同行し、患者の昼間の生活と夜間の生活の違いを把握する。 ・夜間の受け持ち患者に必要な看

	(4)受け持ち患者の状況	護を見学及び一部実施する。 ・担当看護師に同行し、患者の昼間の生活と夜間の生活の違いを把握する。 ・受け持ち患者に関する援助内容や観察したことは統合実習記録様式3に記載する。 ・夜間の状況を踏まえて立案している看護計画の見直しを行う。
--	--------------	--

目標4 複数患者の健康状態に合わせた看護援助を優先順位や時間管理を踏まえ、チームで協力しながら安全に実施できる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. チームメンバーと共に、複数受け持ち患者の優先順位と時間管理を考えた行動計画を立案できる。	1)複数受持ち患者の行動計画に必要な情報の収集と把握 (1)各患者の治療・検査予定 (2)各患者の看護必要度 (3)前日から今朝までの状態 (4)業務の優先順位 (5)援助の優先順位の判断と根拠 (6)各患者の目標と個別性に応じた援助方法 (7)病棟での看護ケアや予定 (8)援助の方向性	・前日のカンファレンスで複数受け持ち患者の状態や検査や治療のスケジュール、メンバー学生の力量を踏まえて翌日の受け持ち患者を決める。 ・当日、複数受持ち患者個々の行動計画を、根拠を考え、立案し調整する。 ・適時リーダーや担当者に必要な報告 ・連絡・相談を行う。 ・病棟での日課、週間予定などを把握する。
2. 行動計画の変更の根拠を明確に説明でき、記録用紙に記載できる。	2)複数受持ち患者の援助の実施 (1)病棟日課 (2)予定されている検査処置内容、留意点 (3)援助時間配分 (4)患者との調整／説明と同意 (5)看護チームとの調整 (6)メンバーシップ (7)割り込み状況（予期しない事象）とその調整 (8)優先順位の評価	・当日、受け持ち患者の情報収集を行い、学生不在時の患者の状態や追加された指示、検査などを把握する。 ・患者の状態や状況、治療の経過、検査を把握し、優先順位を考え、行動計画を修正する。 ・収集した情報から、本日の行動計画の修正を行い、学生看護チームとの調整を行う。 ・患者の1日の生活を考えたスケジューリングを行う。 ・自分の都合だけではなく、患者の安全・安楽を最優先に考えること。
3. チームメンバーと共に、看護援助の優先順位や時間配分について評価し、翌日の行動計画に反映できる。	3)対応困難な場合には自ら申し出ることの必要性	・学生ケア一覧表を活用し、翌日の看護ケアの予定を立案する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・翌日のメンバー学生の様式 2 の患者の予定、様式 3 の本日の目標、看護介入を記載する。 ・ケア一覧表、統合実習様式 1、3、翌日の統合実習様式 2 は病棟の所定の場所で保管する。
--	--	--

目標 5 病院及び病棟における看護管理、医療安全の実際を理解できる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 自己の思考、行動上の特徴を理解し、安全対策の視点で自己の課題と対策を述べることができる。	1)看護者の倫理綱領 2)自己モニタリング <ul style="list-style-type: none"> ・自己の思考、行動上の特徴を理解した行動 ・複数患者の援助における安全を確保した行動 3)自己モニタリングを高める方法 <ul style="list-style-type: none"> (1)関連知識を増やす (2)外に出してみる (3)外からの支援を使う (4)内省の習慣をつける 4)事故発生のメカニズム <ul style="list-style-type: none"> (1)ヒューマンエラー (2)人間特性 (3)エラーを誘発しやすい環境 5)事故対策	<ul style="list-style-type: none"> ・看護計画及び手順書に安全を確保する方法を記載する。 ・患者目標や計画した援助方法の根拠の理解、対象の安全、安楽に配慮された援助であるかを、看護援助実施前に担当者に指導を受ける。 ・援助の振り返りに安全対策の視点で自己の行動を振り返り対策を見出す。 ・統合実習記録様式 2 の「気づき」や「1日の振り返り」、3、手順書、援助の振り返り用紙に記載する。 ・連日のカンファレンスに医療安全に関する視点を含める。
2. 病院理念、看護部理念と看護の実際を結びつけ、自分の考えとともに述べることができる。	1)看護管理 <ul style="list-style-type: none"> (1)ナイチンゲールの看護管理論 (2)看護ケア管理 (3)看護サービス管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・「実習病院の特徴と機能」、「看護ケア提供システムについて」事前に調べておく。(授業資料参照) ・病院における組織の運営、看護

<p>3. 看護管理の必要性について記述できる。</p>	<p>(4)看護政策・行政 (5)病院組織の理解 ①病院組織の特徴 ②理念、経営方針 ③地域における病院の位置づけ (6)看護部の組織構造 ①看護部の理念、目標、方針 ②組織連携 ③新人教育、職員教育について (7)病棟における管理業務 ①病棟の目標 ②管理業務 人的管理・物的管理・財源資源・時間・情報管理について ③看護の質の保障ための取り組み看護提供方式、看護必要度、病床管理など ④病棟師長の役割と業務 人員配置、勤務管理、健康管理、看護サービスの改善、看護研究への支援、施設、物品管理</p>	<p>部の活動などについて看護部長より説明を受け、様式4に気づきや学び、考察を記載する。 ・組織運営や看護部の活動に関する講義を踏まえて、病棟内、ナースステーション内にある看護管理に関連する掲示物、記録物などを探す。記録物や掲示物を閲覧し、看護管理がどのように行われているのか知る。 ・病棟における管理業務について病棟責任者から説明を受ける。 ・看護基準、看護手順、日誌などを閲覧する。 ・カンファレンスやミーティングを見学する。 ・師長業務の見学を行う。 ・病棟責任者に同行し、カンファレンスやミーティング、ラウンドを見学する。 ・病棟師長と一日の振り返りを行い、病棟責任者の権限と責任、看護管理についてまとめを行い、様式4に記載する。 ・カンファレンスで学びや考え、意見を述べる。</p>
<p>4. 病院及び病棟における医療安全の取り組みについて自分の考えを述べ、意見交換ができる。(災害・感染・医療事故)</p>	<p>2) 医療安全 (1)事故発生のメカニズム ①ヒューマンエラー ②人間特性 ③エラー誘発環境 (2)事故分析 ①事故分析の目的 ②事実の把握 ③インシデント分析 (3)事故対策 ①病院における医療安全の取り組み ②病棟における医療安全の取り組み(災害・感染・医療事故) ③病院、看護部、病棟師長、リーダー看護師からの医療安全の方針を受けて行動するこ</p>	<p>・安全管理について事前学習する。 ・病院、病棟における医療安全について説明を受ける。 ・医療安全マニュアル、感染対策マニュアルを閲覧する。 ・カンファレンスで学びや考え、意見を述べる。 ・様式4に気づきや学び、考察を記載する。</p>

	との必要性	
4. チームリーダーとしての役割と責任について自分の考えとともに述べることができる。	3)チームリーダーの役割と責任 (1)患者の把握(治療計画、看護の方向性) (2)メンバー配置 (3)指示、業務調整 (4)医師、他部門との調整 (5)申し継ぎ (6)緊急時の家族への対応 (7)緊急時の上司との連携 (8)カンファレンスの運営 (9)病棟市長への連絡・相談 (10)病棟の施設管理 (11)病棟の医療安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・看護ケア提供システムについて事前学習する。 ・リーダー看護師からリーダーの役割について説明を受ける。 ・リーダー看護師と一日行動を共にし、リーダー看護師の業務の実際を見学する。 ・チームカンファレンスに参加する ・リーダー看護師と一日の振り返りを行う。 ・カンファレンスで学びや考え、意見を述べる。 ・様式4に気づきや学び、考察を記載する。
5. メンバーとしての役割と責任について考察できる。	4)チームメンバーの役割と業務 (1)リーダーとの報告、連絡、相談 (2)医師への報告、連絡調整 (3)チームメンバーとの協力 (4)チームメンバーとの情報共有 (5)チームメンバー間での連絡調整 (6)行動の時間配分 (7)チームメンバーと共にを行うケアの評価、及び再検討	<ul style="list-style-type: none"> ・看護ケア提供システムについて事前学習する。 ・メンバー看護師からメンバーの役割について説明を受ける。 ・チームメンバー看護師と一日行動を共にし、メンバー看護師の業務の実際を見学する。 ・チームカンファレンスに参加する。 ・経験の少ない看護技術など自分でマネジメント困難なシチュエーションでの対処方法を見学する。 ・メンバー看護師と一日の振り返りを行う。 ・カンファレンスで考えや意見を述べる。 ・様式4に気づきや学び、考察を記載する。
6. 多職種の中の看護師の役割について自分の考えとともに記述できる。	5)組織的医療チームとの連携 (1)NST (2)褥瘡ケアチーム (3)ICT (4)医療安全チーム (5)退院調整など	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療について事前学習する。 ・組織的医療チームと看護チームとの協働する場面を見学する。(カンファレンス、コンサルテーションなど) ・カンファレンスで考えや意見を述べる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・見学した日の様式 4 に気づきや学び、考察を記載する。 ・見学した日の様式 2 の気づきの欄に記載する。
7. 夜間の看護師の役割について自分の考えとともに記述できる。	6)夜間看護師の役割と夜間業務の実際 <ul style="list-style-type: none"> (1)看護業務の夜間体制 <ul style="list-style-type: none"> ①巡視 ②申し送り (日勤から夜勤、夜勤から日勤) ③治療処置 (2)夜間帯の日常生活援助内容 <ul style="list-style-type: none"> ①バイタルサイン測定 ②イブニングケア ③モーニングケア ④消灯、入眠の準備 ⑤翌日の検査の準備 ⑥夕食の援助 ⑦夜間における安全対策 ⑧家族の対応 ⑨睡眠導入剤等の投与及び投与後の観察 ⑩緊急時の対応：緊急入院など 予期せぬ出来事への対応 ⑪夜間の療養環境について 7)夜勤業務 <ul style="list-style-type: none"> (1)夜間帯勤務者間の業務連携 当直師長、当直医への引継ぎ内容 (2)夜間帯の管理体制 <ul style="list-style-type: none"> ①夜間と日勤の管理体制の違い ②管理報告 ③人的管理 他部門、他病棟との連携・調整 ④夜間の物的管理 8)夜間帯における医療安全	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間業務の内容について、業務手順などを通して知り、患者の状態把握の方法を考える。 ・引き継ぎを見学し、実際に体験した夜間管理の状況を担当看護師がどのように申し継ぐのかを見学する。 ・担当看護師から夜間勤務のオリエンテーションを受ける。 ・夜間の受け持ち看護師に同行し、夜間帯の援助を把握する。 ・夜間の療養環境を観察する。 ・夜間の受け持ち患者に必要な看護を理解する。 ・各勤務帯の管理体制について説明を受ける。 ・担当看護師に同行し、夜間の業務連携・管理体制について理解する。 ・安全管理について事前学習する。 ・安全の視点で自己の思考・行動の課題と対策を記述する。 ・夜勤の担当看護師に同行し、夜間帯の患者の医療安全対策について見学する。 ・様式 4 に気づきや学び、考察を記載する。
8. 夜間勤務帯における患者の安全対策、看護の引き継ぎについて自分の考えとともに記述できる。		

目標 6 看護チームの一員としての自己の課題を明確にできる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 看護チームの一員として大切だと考えることを踏まえ、看護師としての自己の課題を述べることができる。	1)チームの一員としての役割と責任 2)看護実践において継続して自らの課題に取り組むことの重要性	・実習終了後、リーダー体験、複数受け持ち体験を通しての自己の考えをレポートに記載する。 ・レポートテーマ「統合実習を通しての学びと看護師としての自己の課題」 1600字程度 教育課程にある「レポートの作成」に沿って記載する。

6. 実習の進め方

1) 統合実習Ⅰ スケジュール

曜日	月	火	水	木
時間	9:00～15:00(5.0)	8:15～17:00(8.0)	8:15～17:00(8.0)	8:15～17:00(8.0)
予定	病院組織の運営、管理体制に関する講義 看護部長より看護の組織体制について講義 医療安全、感染管理部門活動に関する講義 病棟看護管理の実際	病棟における管理業務 看護管理の実際 病棟看護師長の見学実習	病棟看護チームにおけるリーダーシップの実際 リーダー看護師の見学実習	病棟看護チームにおけるメンバーシップの実際 新人看護師または2年目看護師の見学実習
CF	病院組織の管理について	学びの共有	学びの共有	看護チームを構成する役割について
記録	事前学習 統合実習記録4	事前学習 統合実習記録4	事前学習 統合実習記録4	事前学習 統合実習記録4 実習評価表

実習初日

時間	実習内容	学生の動き
9:00	実習開始	・決められた集合場所に身だしなみを整えて集合
9:00～	病院組織の運営、管理体制に関する講義(30分～40分程度) 看護部長より看護の組織体制について講義(30分～40分程度) 医療安全、感染管理部門活動に関する講義(30分～40分程度)	・不明点は適宜質問する
11:00頃	昼食	・決められた場所で昼食を取る。
午後	病棟での看護管理の実際を見学	・病棟で、学生が主体となり、午前中に受けた講義や看護管理に関連する記録物、掲示物などを探し、閲覧する。 ・病棟看護師や師長の他職種者との関わり場面、多職種カンファレンスなどがあれば見学する。
14:00	カンファレンス	・学生が主体となりカンファレンスを実施する。 ・午前中の講義と午後、病棟内で探したものを探して学びを深める。 ・カンファレンス記録用紙に記載する。
15:00	実習終了	・出席表を提出し、捺印をもらう。

実習2日目～4日目

時間	病棟師長の見学	リーダー看護師の見学	メンバー看護師の見学	学生の動き
8:15	実習開始			・決められた集合場所に身だしなみを整えて集合。
8:30～	朝礼 師長業務の見学	朝礼 リーダー看護師業務の見学	朝礼 メンバー看護師業務の見学	・病棟挨拶、担当看護師に挨拶、行動目標を発表。 ・休憩は担当看護師の動きに合わせて45分とする。休憩から戻り、実習担当者が不在の時間は記録のまとめや自己学習を行う。 ・検査、処置、会議の見学など終了後には担当者に報告する。
午後	カンファレンス			・学生が主体となり30分程度で実施する。 ・見学する内容によりスケジュールが異なるため、他の学生とあらかじめ時間を決め実施する。 ・カンファレンス終了後は見学に戻る。
	担当者と振り返り			・それぞれの担当者と本日の振り返りを行い、学びを深める。不明点は質問する。
	夜勤者へ申し継ぎの見学			・それぞれの役割での申し送りを見学する。
17:00	実習終了			・担当看護師、病棟へ挨拶。 ・出席表は担当看護師または実習指導者に提出し、押印してもらう。

2) 統合実習 II

実習スケジュール

曜日	月	火	水	木	金
時間	8:15～15:30(6.5)	8:15～16:30(7.5)	8:00～16:15(7.5) 夜間 18:00～22:30、 6:00～9:00 (7.5)	8:00～16:15(7.5) 夜間 18:00～22:30、 6:00～9:00 (7.5)	8:00～16:15(7.5)
予定	受け持ち患者選定 各学生が1名の患者を受け持つ 情報収集 コミュニケーション 看護計画立案 自己目標の明確化 グループ目標の設定	受け持ち患者1名の看護実践	夜間実習開始 リーダー役割体験 メンバー役割(複数患者受け持ち)	夜間実習 リーダー役割体験 メンバー役割(複数患者受け持ち)	リーダー役割体験 メンバー役割(複数患者受け持ち)
CF	自己目標、グループ目標の設定	受け持ち患者の情報共有	翌日の看護実践に向けて	翌日の看護実践に向けて	翌日の看護実践に向けて
記録	様式4-1、統合様式1、全体像	統合様式1、全体像、 様式4-2、援助の振り返り	統合様式1、2、3、4、 援助の振り返り	統合様式1、2、3、4、 援助の振り返り	統合様式1、2、3、4、 援助の振り返り

曜日	月	火	水	木	金
時間		8:00～16:15(7.5) 夜間 18:00～22:30、 6:00～9:00 (7.5)	8:00～16:15(7.5) 夜間 18:00～22:30、 6:00～9:00 (7.5)	8:00～16:15(7.5)	9:00
予定	祝日	夜間実習 リーダー役割体験 メンバー役割(複数患者受け持ち)	夜間実習 リーダー役割体験 メンバー役割(複数患者受け持ち)	リーダー役割体験 メンバー役割(複数患者受け持ち) 最終面談	記録提出
CF		翌日の看護実践に向けて	翌日の看護実践に向けて	最終カンファレンス テーマ:自己目標、グループ目標の評価	
記録		統合様式1、2、3、4、 援助の振り返り	統合様式1、2、3、4、 援助の振り返り 実習評価表	統合様式1、2、3、4、 援助の振り返り リフレクションシート	

統合実習 II 実習ローテーション(例)

<5人グループの場合>

		学生 1	学生 2	学生 3	学生 4	学生 5
1週目	実習 1 日目	1名の患者	1名の患者	1名の患者	1名の患者	1名の患者
	実習 2 日目	1名の患者	1名の患者	1名の患者	1名の患者	1名の患者
	実習 3 日目	夜間	リーダー	メンバー	メンバー	メンバー
	実習 4 日目	夜間	夜間	リーダー	メンバー	夜間
	実習 5 日目	メンバー	夜間	メンバー	リーダー	夜間
2週目	実習 6 日目	メンバー	メンバー	夜間	夜間	リーダー
	実習 7 日目	リーダー	メンバー	夜間	夜間	メンバー
	実習 8 日目	メンバー	リーダー	メンバー	メンバー	メンバー

※男子学生の夜勤は実習 3 日目とする。

<4人グループの場合>

		学生 1	学生 2	学生 3	学生 4
1週目	実習 1 日目	1名の患者	1名の患者	1名の患者	1名の患者
	実習 2 日目	1名の患者	1名の患者	1名の患者	1名の患者
	実習 3 日目	夜間	リーダー	メンバー	メンバー
	実習 4 日目	夜間	夜間	リーダー	メンバー
	実習 5 日目	メンバー	夜間	メンバー	リーダー
2週目	実習 6 日目	リーダー	メンバー	夜間	夜間
	実習 7 日目	メンバー	リーダー	夜間	夜間
	実習 8 日目	リーダー	メンバー	メンバー	メンバー

※男子学生の夜勤は実習 3 日目とする。

◆複数患者の受け持ち

- ・夜勤実習の学生、リーダー役割の学生が受け持っている患者を含めて、学生が受け持っている患者をメンバー学生、リーダー学生で受け持つ。
- ・受け持つ患者数はメンバー1人につき最大患者2名。
- ・前日、患者の状況によって翌日の学生看護チームでの受け持ち患者及び受け持ち人数を決める。
- ・リーダーはメンバーの状況やリーダー役割遂行を考え、可能であれば患者の受け持ちを行う。
- ・メンバーの人数によっては、全員の患者を受け持つことができないため、その場合は学生が指導者に申し出る。

複数受け持ち実習(実習 1 日目)

時間	実習内容	学生の動き
8:15	実習開始	・決められた集合場所に身だしなみを整えて集合。
8:30		・病棟挨拶、行動目標を発表(様式 4-1 を使用)。 ・不明点は適宜質問する。 ・学生の受け持ち患者の選定(学生 1 人につき患者 1 名)、患者の同意を得る。 ・受け持ち患者の情報収集を行う。 ・病棟看護チームで立案されている看護計画を参考に受け持ち時の患者の状態をアセスメントし、看護計画を立案する。 ・看護計画は統合実習記録様式1(看護計画)に記載する。 ・受け持ち患者の全体像の記載を行う。
12:00 頃	休憩	・決められた場所で適宜、休憩をとる。
15:00	カンファレンス	・カンファレンステーマに沿って実施する。 ・カンファレンス記録用紙に記載する。
15:30	実習終了	・出席表は担当看護師または実習指導者に提出し、捺印をもらう。

複数受け持ち実習(実習 2 日目)

時間	実習内容	学生の動き
8:15	実習開始	・決められた集合場所に身だしなみを整えて集合。
8:30		・病棟挨拶、行動目標を発表(様式 4-2 を使用)。 ・行動計画に沿って1名の受け持ち患者の看護ケアを行う。 ・患者との関わりを通して、立案している看護計画を追加修正する。 ・看護計画は統合実習記録様式1(看護計画)に記載する。 ・受け持ち患者の全体像の追加、修正を行う。
12:00 頃	休憩	・決められた場所で適宜、休憩をとる。
15:30	カンファレンス	・カンファレンステーマに沿って実施する。 ・受け持ち患者の情報共有を行う。
16:00	翌日の行動計画立案	・翌日より、学生看護チームメンバーで看護ケアが提供できるよう、看護計画の共有、必要事項の確認などを行う。 ・その日の患者の状況、翌日の患者の予定、学生の力量を考え、翌日の学生メンバー やリーダーの受け持ち患者を決める。 ・学生ケア一覧表を活用し、翌日の看護ケアの予定を立案する。 ・受け持ち患者の統合実習記録様式 1(看護計画)の記載を行う。 ・翌日のメンバー学生の様式 2 の患者の予定、様式 3 の本日の目標、看護介入を記載する。 ・ケア一覧表は病棟の所定の場所で保管する。 ・記録物は患者ごとにファイリングし、病棟の所定の場所で保管し、学生看護チームで活用できるようにする。 ・カンファレンス記録用紙に記載する。
16:30	実習終了	・出席表は担当看護師または実習指導者に提出し、捺印をもらう。

複数受け持ち実習(実習 3 日目以降)

時間	実習内容	学生看護チームリーダーの動き	学生看護チームメンバーの動き
8:00	実習開始	・決められた集合場所に集合。体温測定、行動計画の確認。	
8:15	情報収集 行動計画修正	・身だしなみを整えて病棟に上がる。 ・本日の担当看護師を確認 ・収集した情報から、前日立案した行動計画の修正を行う。	・身だしなみを整えて病棟に上がる。 ・本日の担当看護師を確認 ・収集した情報から、前日立案した行動計画の修正を行う。
8:30	朝礼 申し送り 行動調整	・病棟看護チームの申し送りを聞く。 ・夜勤学生からの申し送りを聞く。 ・受け持ち患者へ挨拶 ・申し送りを経て、行動計画の修正をメンバーと共にを行う。(学生ケア一覧表の活用) ・メンバーと修正した行動計画を実習指導者に発表する。 ・実習指導者より指導を受け、必要時、メンバーと共に行動計画を修正し、報告する。	・病棟看護チームの申し送りを聞く。 ・夜勤学生からの申し送りを聞く。 ・受け持ち患者へ挨拶 ・申し送りを経て、行動計画の修正をリーダー学生と共にを行う。 ・リーダー学生とともに必要時、行動計画の修正を行う。 ・リーダー学生が行動調整を行なっている間、環境整備や、ケアの準備などを行う。 ・学生リーダーから調整を受ける。
	ケアの実施	・全ての担当患者の報告を指導者に行う。 ・その日の受け持ち患者がいる場合、受け持ち患者のケアを行う。 ・状況に合わせてメンバーとケアを実施する。 ・ケア(看護計画に基づき実施)の結果、患者の状態について実習指導に報告する。	・担当患者に対し、看護計画に基づくケアを実施する。 ・適宜、リーダー学生へ患者の状態について報告・相談を行う。 ・受け持ち患者の統合実習記録様式 3 を記載する。適宜、様式 1 を追加修正する。 ・適宜、統合実習記録様式 2 を記載する。
11:30 頃	報告	・学生メンバーから報告を受ける。 ・午前のケアやメンバーの動き、休憩時間、午後の予定などを指導者へ報告する。	・リーダー学生へ報告する
12:30 頃	休憩	・ケアの状況から、時間を調整し、休憩を取るよう采配する。	・リーダー学生の采配に従い休憩を取る。

13:30 頃	ケアの実施	<ul style="list-style-type: none"> 午後のケアの実施、後片付けなど その日の受け持ち患者の統合実習記録様式3を記載する。適宜、様式1を追加修正する。 看護計画の見直しなど。 	<ul style="list-style-type: none"> 午後のケアの実施、後片付けなど 受け持ち患者の統合実習記録様式3を記載する。適宜、様式1を追加修正する。 適宜、統合実習記録様式2を記載する。 看護計画の見直しなど。
14:30 頃	報告	<ul style="list-style-type: none"> 学生メンバーから報告を受ける。 指導者に受け持ち患者の報告を行う。 	リーダー学生へ報告する。
15:00 頃	本日の記録 翌日の行動計画立案及び調整	<ul style="list-style-type: none"> 報告が終わり次第、本日の記録、翌日の行動計画の立案を行う。 カンファレンスは必要に応じて、学生が主体となり実施する。 当日の受け持ち患者の統合実習記録様式1(看護計画)様式3(SOAP)の記載を行う。 受け持ち患者の看護計画の追加、修正内容を共有する。 その日の患者の状況、翌日の患者の予定、学生の力量を考え、翌日の学生メンバーの受け持ち患者を決める。 学生ケア一覧表を活用し、翌日の看護ケアの予定を立案する。 翌日のメンバー学生の様式2の患者の予定、様式3の本日の目標、看護介入を記載する。 学生リーダーはリーダーカンファレンスで決めた翌日の受け持ち患者を実習指導者へ報告する。 カンファレンス実施時、カンファレンス記録を記載する。 記録物は患者ごとにファイリングし、病棟の所定の場所で保管し、学生看護チームで活用できるようにする。 日勤帯の患者の状態を夜間実習の学生と共有できるようにする。 	
16:15	実習終了	<ul style="list-style-type: none"> 病棟挨拶、担当看護師へ挨拶する。 出席表は担当看護師または実習指導者に提出し、捺印をもらう。 	

3) 夜間実習

実習時間 18:00～22:30、6:00～9:00 (休憩を含まない)

夜間実習(夜勤看護師の見学実習)スケジュール

時間	実習内容	学生の動き
18:00～	実習開始 夜勤看護師業務の見学 受け持ち患者の看護ケア、観察の見学及び一部実施	<ul style="list-style-type: none"> 決められた集合場所に身だしなみを整えて集合。 病棟挨拶、担当看護師に挨拶、行動目標を発表。 不明点は適宜質問する。 学生の受け持ち患者の情報収集を行う。 学生の受け持ち患者の看護ケアや観察の見学、一部実施する。 夜勤帯の患者の状態を日勤帯の学生と共有できるようにする。 必要時、統合実習記録様式1(看護計画)を追加、修正する。 必要時、統合実習記録様式3を記載する。 夜勤看護師の見学を通しての学びは統合実習記録様式4に記載する。
22:30～	休憩	<ul style="list-style-type: none"> 決められた場所で休憩をとる。 休憩中の外出は禁止する。
6:00～	実習開始 夜勤看護師業務の見学 受け持ち患者の看護ケア、観察の見学及び一部実施	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみを整えて病棟へ行く 不明点は適宜質問する。 学生の受け持ち患者の看護ケアや観察の見学、一部実施する。 夜勤帯の患者の状態を日勤帯の学生と共有できるようにする。 必要時、統合実習記録様式1(看護計画)を追加、修正する。 必要時、統合実習記録様式3を記載する。 夜勤看護師の見学を通しての学びは統合実習記録様式4に記載する。
8:30	申し送り	学生看護チームへ申し送りを行う。
9:00	実習終了	<ul style="list-style-type: none"> 担当看護師、病棟へ挨拶。 出席表は担当看護師または実習指導者に提出し、捺印をもらう。

※夜間実習終了時、担当教員が不在の場合、担当教員へ実習終了の連絡を行う。

夜間実習中、体調の変化などは早めに実習指導者及び担当看護師に申し出る。

◆提出物

<統合実習 I>

- 1) 評価表
- 2) 出席表
- 3) 実習記録:統合実習記録 様式 4 (組織管理、看護管理、リーダー、メンバー)

<統合実習 II>

- 1) 評価表
- 2) 出席表
- 3) レポート
- 4) 実習記録: 様式 4-1, 4-2, 3(全体像)、統合実習記録 様式 1, 2, 4、援助の振り返り、手順書
- 5) 統合実習記録 様式 3 は患者ごとにまとめて綴る。
- 6) カンファレンス記録用紙は日付順にまとめて綴る。

◆評価について

- 1) 実習評価表の網掛け部は、統合実習 I が終了した段階で記載する。
- 2) 統合実習 II が終了した段階で、全ての自己評価を行い提出する。

7. 実習評価表 実習期間: 年 月 日 ~ 年 月 日

実習グループ G 学籍番号 _____ 学生氏名 _____

	評価項目	自己評価	教員・指導者評価
目標 1	1.チームメンバーと情報を共有しながら、複数の受け持ち患者の身体的・心理的・社会的特徴を記述できる。		
目標 2	1.チームリーダー及びメンバーの役割を踏まえて、行動できる。 2.実施した看護ケアの結果を系統的に報告できる。		
目標 3	1.チームメンバーと複数患者の情報を共有し、優先される看護問題を明確にできる。 2.複数患者の優先順位を判断した根拠を記述できる。 3.複数患者の反応を基に実施した看護ケアの評価、優先順位の評価が記載できる。 4.夜間における患者の状態を記録に記載し、必要時、看護計画の修正ができる。		
目標 4	1.チームメンバーと共に、複数受け持ち患者の優先順位と時間管理を考えた行動計画を立案できる。 2.行動計画の変更の根拠を明確に説明でき、記録用紙に記載できる。 3.チームメンバーと共に、看護援助の優先順位や時間配分について評価し、翌日の行動計画に反映できる。		
目標 5	1.自己の思考、行動上の特徴を理解し、安全対策の視点で自己の課題と対策を述べることができる。 2.病院理念、看護部理念と看護の実際を結びつけ、自分の考えとともに述べることができる。 3.看護管理の必要性について記述できる。 4.病院及び病棟における医療安全の取り組みについて自分の考えを述べ、意見交換ができる。(災害・感染・医療事故) 5.チームリーダーとしての役割と責任について自分の考えとともに述べることができる。 6.メンバーとしての役割と責任について考察できる。 7.多職種の中の看護師の役割や連携について自分の考えとともに記述できる。 8.夜間の看護師の役割について自分の考えとともに記述できる。 9.夜間勤務帯における患者の安全対策、看護の引き継ぎについて自分の考えとともに記述できる。		
目標 6	1.看護チームの一員として大切だと考えることを踏まえ、看護師としての自己の課題を述べることができる。		
学生コメント 統合 I		指導者コメント サイン	
統合 II		教員コメント	
自己評価合計点 サイン			サイン
欠席合計時間 時間 分		総合評価点	サイン

評価基準 5:達成 3:一部達成 1:未達成

※実習評価表の網掛け部は、統合実習Iが終了した段階で記載する。統合実習IとIIの出席をもって評価の対象とする。指導者、教員コメントは統合実習IIの終了時に記載する。